

連城三紀彦『戻り川心中』講釈

10月19日

1. 著者紹介

連城三紀彦……昭和23年名古屋生まれ。本名、加藤甚吾。昭和47年早稲田大学政経学部卒。卒業後は大映にシナリオ研修生として入社。大映倒産後はシナリオ研究のためにパリへ留学、映画三昧の日々をおくる。昭和53年に『変調二人羽織』で第三回幻影城新人賞に入選、作家デビュー。ペンネーム「連城三紀彦」は実姉による命名。昭和56年、『戻り川心中』で第34回日本推理作家協会賞短編賞を受賞。愛知県在住。

2. 『戻り川心中』講釈

この『戻り川心中』で主に謎とされているのは「どうして？」の部分。

『藤の香』	・代筆屋はどうして連続殺人を行ったのか？
『桔梗の宿』	・福村を殺したのはだれなのか？ ・鈴ちゃんはどうして福村を殺したのか？ ・どうして福村の死体は桔梗を握っていたのか？
『桐の柩』	・貫田の兄貴はどうして〈俺〉に組長を殺させたのか？
『白蓮の寺』	・記憶のなかで母が殺している男はだれなのか？ ・母はどうして「その男」を殺さねばならなかったのか？
『戻り川心中』	・苑田岳葉が心中に込めた真意とはなんだったのか？

I. 『藤の香』～そういう道の尋ね方もあったのです～

- ◇ 死体の顔が潰された連続殺人。→身元を隠す目的。→Why?
- ◇ 「犯人＝代筆屋」ははやくから匂わされている。問題は「代筆屋がなぜ連続殺人を起こしているのか？」という謎。
- ◇ お民かわいいよお民。
- ◇ 「代筆屋はどこか」→必ずしも代筆屋の場所を問うてる場合に限らず。ここがポイント。……でもこれって某国内古典作品にもあるよね？
- ◇ お縫の夫は踏んだり蹴ったり。
- ◇ 代筆屋だからこそできた犯罪！！

II. 『桔梗の宿』～「面白いわ。みんな同じことする」～

- ◇ 死体の握っていた桔梗。→福村犯人を示唆。
- ◇ よく慌てる鈴ちゃん。鈴ちゃんかわいいよ鈴ちゃん。
- ◇ 「その晩、私が部屋を出ようとした際、鈴絵は、『あの——』と声をかけた。(略)も

し私が鈴絵の口から言葉を聞き出していたなら、少なくとも第二の事件は未然に防ぐことができたかも知れなかった。」→鈴ちゃんの語りたかった言葉……。

- ◇ 福村の死体も桔梗を握っていた。→Why?
- ◇ 窓から投げつけられた桔梗の花……。
- ◇ 「鐘の音が聞こえる——」→鈴ちゃんの告白。
- ◇ 「約束してくれたわ。こんな部屋で、こんな汚い、めちゃめちゃの、嘘だらけの部屋で交わした約束でも、約束は約束だわ。出て行って下さい」
- ◇ 「黒子と人形の心中」→「昭和三年のお七」という二段の真相提示。
- ◇ 福村も報われねえなあ！
- ◇ 読後に眼鏡外して鏡見たけど、そんなことはなかった。

III. 『桐の柩』～柩を焼くには死骸が要るのではないか～

- ◇ 「ミルクホール」とは？→goo 辞書先生曰く、「《(和)milk+hall》牛乳やコーヒー・パン・ケーキなどを供した軽飲食店。明治末期から昭和初期にかけて流行した。」つまり、番代が〈俺〉に渡した「ミルク代の釣り銭」は牛乳代のお釣り。ミルク飲むヤクザって……。
- ◇ 貫田の兄貴が〈俺〉をおきわの元へ通わせる理由。→「わたしを殺させるためにあんたをここへ送ってくるの」
- ◇ 取り出された短刀と「私にだってこれがあるもの——」というおきわの台詞。→騙されるよね、普通。
- ◇ 「——死骸を焼くのに棺桶は要らない。だがしかし、柩を焼くには死骸が要るのではないか」→連城三紀彦お得意のネガポジ反転的発想。
- ◇ 「こんな回りくどいことしなくても、何かしらの理由つけて、最初から麻酔使って全部の指切り落とせばよかったのでは……」→「短刀の指紋」と「柩の指紋」が残っている以上、兄貴の指が全部無くなっても安心はできない。
- ◇ 「結局は好き同士なのかよ！」と声を大にして言いたい。

IV. 『白蓮の寺』～「あなたはお母様の罪を憶えていますね」～

- ◇ 「母親が刃物で男を殺している」情景。→その男は誰なのか？また、母はどうして男を殺しているのか？
- ◇ 凶星の下に生まれた母。沈みゆく農婦→これが伏線だなんて誰が気づくよ？
- ◇ 「水面に映った私の顔はまっ白なのです。白い肌に、眼も、花も、口も溶けこんでしまっているのです。」→真相は確かに「白い顔」。書き方の妙よね。
- ◇ 蓮の花を嫌悪する母親→？
- ◇ 「母の最期の指は、しばらく私の顔をさまよっていましたが、やがて眉に触れると、それがわかったのか、うすく微笑みました。」→真相知ってからこれ以降読むと、結構怖い。
- ◇ 記憶のなかでは、「母が男を殺している」。だが現実では満吉を殺したのは父親。この矛盾を解決するには……？→「〈私〉の記憶にある情景は、『満吉殺し』のものではない」とするしかない。

- ☆ 宗田が余計なことをせずに「襲いかかってきた満吉をすゑが正当防衛で殺した」という虚偽の事実しか〈私〉が知らなかったら、記憶のなかにある「母が男を殺害している情景」の矛盾は起きなかった。……何を言っているのか自分でも今一つ理解できていないのだが。
- ☆ ともすれば記憶のなかで母が殺しているのはだれか？→登場人物のなかで満吉以外に死んでいる男＝〈私〉の父親。
- ☆ となると次の疑問「母親はどうして父親を殺したのか？」→「〈私〉≠鍵野史朗」
- ☆ 「震災で史朗を死なせてしまったのです。」→本当にそうなのかな……。
- ☆ それにしても謎。刺殺され、しかも1週間水の底に沈められた遺体が、焼死体としてごまかせるか？

V. 『戻り川心中』 ～ここに一人の天才歌人がいた～